

- ・定期的に授業を確認しましょう
- ・研究授業の前後で確認しましょう

おだわらユニバーサルデザイン

※1 課題あり 2 ままあ 3 できた

活動する	時間の構造化	一日の流れ、授業の流れを視覚的に示している	1・2・3
		無理のない適切な時間設定にしている	1・2・3
		タイマーなどで自発的に時間の切り替えができるようにしている	1・2・3
	教室の構造化	物の置き場が決まっていて、視覚的にわかりやすくなっている	1・2・3
		座席配置は黒板や教員が見やすい配置になっている	1・2・3
		子どもの視線と視界に配慮した姿勢が保持されている(肢体不自由教育部門)	1・2・3
		教材を置く場所が決まっている	1・2・3
	刺激量の調整	授業に関係のない音があまり聞こえない	1・2・3
		授業に関係のない掲示物や装飾はない(特に前方)	1・2・3
	ルールの明確化	質問の仕方、意見の伝え方、話し合いの仕方などのルールを設定している	1・2・3
クラスの理解促進	日常的に励まし合う、助け合うなどの関係が築きやすい雰囲気がある	1・2・3	
	日ごろから、お互いの良いところや個性を生かす視点でかかわっている	1・2・3	
理解する	共有化	ペア学習やグループ学習をおこなう	1・2・3
		授業の最後に振り返りを発表する時間を設ける(写真や動画等)	1・2・3
	感覚の活用	体験的な活動を行う(具体物の操作等) 聴覚、味覚、嗅覚、触覚、を刺激・活用する活動内容を工夫する	1・2・3
	視覚化	キーワードを板書やイラスト、写真等で示している	1・2・3
		写真、iPad(kyenote、DropTalk・Tap)、ICT 機器を効果的に使用している	1・2・3
	スモールステップ化	児童・生徒のつまずきや課題を把握し、段階ごと細かく分解して 1つずつ提示している	1・2・3
		前時の復習をしつつ、新たな課題を本時に設けている	1・2・3
	展開の構造化	児童・生徒の興味・関心に沿った導入をしている	1・2・3
		児童・生徒が考える場面や自発を促す場面を設定している。	1・2・3
		課題の始まりと終わりがわかりやすい	1・2・3
	焦点化	学習指導要領を根拠としている	1・2・3
		実態把握に基づく個別の目標を設定している	1・2・3
		本時に学ぶこと・習得すべき内容が明確であり、児童・生徒に伝わっている	1・2・3
	習得する	スパイラル化	既習事項を活かした学習内容が本時に組み込まれている
活用する	適用化	学んだことを別の課題で活かすという視点で授業内容を設定している。	1・2・3
	機能化	学んだことを日常生活で活かすという視点で授業内容を設定している。	1・2・3

参観者、サブティーチャーにもチェックしてもらおう!

教員のかかわり	人的環境	教員の声の大きさは適切である	1・2・3
		ネガティブな言葉かけよりポジティブな言葉かけが多い	1・2・3
		あいさつ、発言時のルールなど授業規律がはっきりしている	1・2・3
		成功体験を重ねられる設定、活動である	1・2・3
		状況に合わせて言葉かけ(内容、トーン大きさ、タイミング、速さ)をしている	1・2・3
		心理的に安定するよう、正面から落ち着いて言葉を精選して話している	1・2・3
		児童・生徒の反応に対して感情的にならない	1・2・3
	実態把握	児童・生徒の得意な面や好きなものを把握している	1・2・3
		児童・生徒の行動・情緒の特性を把握・共有している また、対応をそろえている	1・2・3
		その日の体調や状態を把握している	1・2・3

教室の環境整備

～知的教育部門～

物理環境

教室内の掲示物

- 見やすい文字で掲示
- ・視認性を考慮した文字の色、太さ、台紙の色
- ・子どもが書いたら読みやすい字を書けるような工夫(ます目、螺旋等)

UD フォント

※明朝体よりもゴシック体が推奨⇒縦横の太さの違い、はねが刺激に



- 文字だけでなくシンボルや写真を併用

※子どもが情報を得たり確認したりするための掲示物であることをおさえる

- 日課表ボード、シンボルを使用した日課カードの使用

- ・日課ボードやカレンダーは移動可能
- ・前面に掲示物は貼らない
- ・時間を意識できるような工夫

- 時系列のものは
横書きなら上⇒下へ
縦書きなら左⇒右へ

- 学習に必要なものの刺激はシャットアウト!
・中学部は上から順に
教科書⇒個別教材⇒着替えグッズ⇒防災ヘルメット
に統一

鏡や教員の教材、防災関係のものにはカーテンを



- コミュニケーションボードの場所を明確に
- ・机の右側にコミュニケーションで使用するグッズをそろえる
- ・実態に合わせた椅子の活用
- ・床には机をそろえる目印

人的環境

教員も環境の一つ
意識したかわりを!

- 叱らず褒めることを多くしましょう
- ・①すぐに ②個に合わせた行動や言葉で ③具体的に
- ・不適切な行動はその原因に着目しましょう



- 子どもの気持ちを考えましょう
- ・子どもがどんなことを思っているか考え、意思を尊重しましょう
- ・すぐに否定せず肯定的な言葉がけを心掛けましょう



- 安心できる柔らかい雰囲気クラスにしましょう
- ・先生がクラスでたくさんふわっと言葉を使いましょう⇒子どもが真似します
ふわっと言葉…気にしないで、大丈夫、待っているよ、OK、いっしょにやろう
ちくっと言葉…何やってんだよ、ふざけるな、お前のせいだ、やっちゃった

